

A-1 横浜メダカってなんだろう？

～絶滅危惧種メダカを通して持続可能な社会の実現に取り組もう～

講義担当:横浜メダルの会

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 □放課後施設利用児童 □中学生 □高校生 ■大学生 □地域一般					
授業活用例	1年～6年理科・生活科・横浜の時間					
関連のあるSDGsのゴール	15 陸の豊かさを守ろう		オンライン授業	■可	□不可	
対応可能曜日	■平日 □休日 □その他(曜日)					
対応時間	1校時から6校時					
年間実施上限数	15回(日程があれば15回を超えても開催できます。)					
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(屋内：パソコン、プロジェクターが利用できる教室) □ワークショップ() ■自然体験(理科室など、顕微鏡で観察できる部屋)					
講座所要時間	45分					
実施条件、必要な準備等	大型テレビ、プロジェクター、顕微鏡等					

講座内容

1. 本講座の目的・ねらい

横浜メダカの雌雄の特徴、発生・成長について、予想や仮説を基に観察を通して理解するとともに、世界のメダカや絶滅危惧種の保存活動を通して多様性・食物連鎖等の視点から持続可能な社会の実現について学びます。

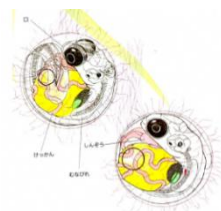


図 岩松鷹志

2. 内容(実施時間に応じて内容を調整します。)

- ・主な内容
 - ・5 年理科「メダカのたんじょう」では、メダカの卵や成体の観察を通して、卵の成長や、雌雄の違い・体のつくりについて学習します。
 - ・6 年理科「食物どうしのつながり」では、「池や川の水中の小さな生物」(ミジンコ等)を観察したり、メダカが捕食する様子を観察したりして、小さな生物を出発点とした食物連鎖の繋がりを学びます。
 - ・「横浜の時間」では、「世界のメダカ」の紹介や「横浜メダカ等を保存するビオトープづくり」など、学校で飼育しているメダカや絶滅危惧種横浜メダカ等を保存する活動を通して持続可能な社会の実現に取り組みます。
- 



問合せ先:横浜メダカの会(有馬 武裕) TEL:090-4429-9623

メールアドレス:tarima1@outlook.jp

A-2 身近な自然・生きものを知ろう！

～身近な生きものを知り、身近な自然への興味・理解を深める～

講義担当：(ふるさと侍従川に親しむ会)山田陽治

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 ■大学生 ■地域一般		
授業活用例	幼稚園・保育園の自然体験活動。小学校 1、2 年の生活科。小学校 3～6 年の理科、総合的な学習の時間。その他、中学校や各種団体の自然観察など		
関連のあるSDGsのゴール	4、15  	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	■平日 ■休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	いつでも(但し、要調整)		
年間実施上限数	なし		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義 (どこでも※必要場合はディスプレイなど使用できる環境) ■ワークショップ (どこでも※但し、下見した上での判断となります) ■自然体験 (どこでも※但し、下見した上での判断となります)		
講座所要時間	応相談		
実施条件、必要な準備等	アクティビティの内容によります(事前打合せで確認します)		

講座内容

ねらい

1. 身近な生きものについて興味を持ち、知ることによって自然を守るための資質を育てる
2. 地域や環境の違いによって、そこに棲む生き物の違いを知ることによって生物や環境の多様性についての理解を深める
3. 様々なアクティビティやプログラムを行うことによって、上記のねらいを年齢に応じて達成します

内容

1. 生き物調べ
2. 「ミニ水族館づくり」「ミニ博物館づくり」「葉っぱと仲良くなろう」「木と仲良くなろう」「森の宝ものを探そう」等の体験型プログラム
3. 観察
4. 生き物やその環境についての説明

などですが、趣旨にあえば、受講者の要望に応じた対応も可能です



問合せ先：ふるさと侍従川に親しむ会 TEL:090-3806-0055

メールアドレス:info★jijyukai.sakura.ne.jp(★を@に置き換えてください)

ホームページ:http://jijyukai.sakura.ne.jp/wp/

A-3 「動物のからだの不思議」

～みんなとどこが違うかな？動物のからだを見てみよう！～

講義担当: (公財)横浜市緑の協会 (よこはま動物園、野毛山動物園、金沢動物園)

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	6年生理科「体のつくりとはたらき」		
関連のあるSDGsのゴール	15	オンライン授業	☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	10時～15時のうち45分間		
年間実施上限数	各園1回、合計3回まで		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(パワーポイントや骨格標本を使用しての講義・実習) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	約45分		
実施条件、必要な準備等	プロジェクター、スクリーン、PC(パワーポイント使用)、マイク、派生物や道具をのせる長机(台など)		

講座内容

1 講座の目的・ねらい

6 年生の理科の教科書に沿った内容で動物の体のつくりを解説し、私たちの体といろいろな動物たちの体の違いを知ることにより、生命を尊重する態度を育てます。

2 内容

(1)講義(約35分:パワーポイント使用)

草食動物と肉食動物の体のつくりの違いを、写真を使用して説明します。

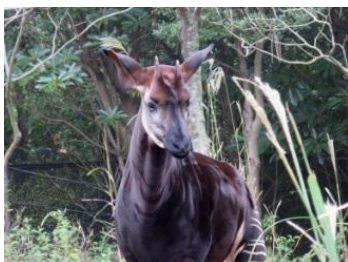
(2) 実習(約10分)

動物の頭骨などの標本を観察します。

※ 申込期限:出前講座の募集期間をご確認の上、実施の1か月前までお申込みください。

※ 事前準備: 当日の説明等を円滑に進めるため、事前に先生との打ち合わせをお願いします。

※ 新型コロナウイルス感染拡大状況等により実施内容を変更する場合があります。



A-4 ビオトープで小さな生態系を感じてみよう

～学校のエコアップでいきものが棲める環境を学びます～

講義担当：よこはま里山研究所～NORA

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	3・4 年「理科:身の回りの生物」、5・6 年「理科:生物と環境」 総合、委員会		
関連のあるSDGsのゴール	3. 4. 11. 13. 15. 17	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	8 時～17 時		
年間実施上限数	特になし		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(ビオトープの意義、作り方、管理活用など) ☒ ワークショップ(ビオトープ計画づくりを児童・生徒と考える、ビオトープ整備) ☒ 自然体験(自校のビオトープの生きものの観察)		
講座所要時間	45 分から 90 分 (調整可能)		
実施条件、 必要な準備等	講義:液晶プロジェクタ もしくは 大型テレビ ワークショップ・自然体験:児童・生徒が使う道具類(例:スコップ、バケツ、網、水槽など) お願いします		

講座内容
1 本講座の目的・ねらい ビオトープとは、生物が自らの力で生きていくことのできる場所を意味します。学校トンボ池は代表的なビオトープの一つですが、校内の水田や畑、草地、樹木なども生物の生息環境として捉えることができ、学校全体をビオトープと見ることもできます。学校の外に目を向けてみると、横浜市内には水田や畑、草地や樹林地など『里山』と呼ばれる自然環境が残されており、多様な生物の生息場所となっています。この里山の自然は人々の営みの結果として育まれてきた環境です。人の営みが生態系形成の一躍を担うことで人と自然との共生関係が成立していることが理解できます。 本講座では、都市の中でわずかに残された里山や公園・樹林地などの自然環境と学校ビオトープのつながりや人が自然と関わることで結果として自然環境が保全されるということを学びます。また、実際に児童がビオトープと関わることで、生物多様性や人と自然の関わりの大切さを実体験できます。講座をとおして、横浜の緑の大切さを考えるきっかけとなることを期待します。 2 内容(実施時間に応じて内容を調整します。) (1) 講義の場合 ビオトープとはなにか、どういう意味があるのか、横浜の自然の変遷、学校ビオトープと里山のつながり、学校ビオトープでどのような生きものが生息できるか、ビオトープの管理・活用方法などについて一緒に考えます。授業で調べ学習が進んでいる場合は、疑問にもお答えします。 (2) ワークショップの場合 児童・生徒と話し合いをしながら、ビオトープ(計画)づくり等のお手伝いをします。 3 その他 授業は担任の先生と組み立てたいと思います。

問合せ先：よこはま里山研究所

メールアドレス:shimamura@nora-yokohama.org

A-5 「身の回りの生きもの 野鳥を知ろう」

野鳥観察を通して、地域の自然を知る

講義担当：(公財)日本野鳥の会 横浜自然観察の森レンジャー

講座対象者	☒ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	小学校理科・横浜の時間・宿泊体験学習行事の事前学習 等		
関連のあるSDGsのゴール	11・13・15	オンライン授業	☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	☐ 平日 ☐ 休日 ☒ その他(平日 ※休館日を除く。)		
対応時間	45分(相談可)		
年間実施上限数	2回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(対面もしくはオンライン) ☐ ワークショップ ☐ 自然体験(校庭か近隣の公園等)		
講座所要時間	45分		
実施条件、必要な準備等	・休館日の月曜(祝日の場合は翌日)と12/28～1/4は対応できません。 ・オンラインの場合は実施可能な設備(PC・wi-fi 等)があること。		

講座内容
ご要望に合わせて対応させていただきます。 ■ねらい:<u>身の回りにいる野鳥を知り、観察の方法を身に付ける。</u> <u>野鳥を通じて、自分が住む地域の自然に関心を持つ機会とする。</u> ■内容:レンジャーが講師として出向き、以下の講義をおこないます。 - 野鳥に関心を持つ。 ・野鳥ってなんだろう？野生の鳥、野生動物とは？ ・野鳥の体のつくり - 地域の自然に関心を持つ。 ・学校など身の回りに生息している野鳥 ・身近な自然環境と野鳥の関わり - 野鳥観察の仕方を知る。 ・野鳥観察のポイント ものさし鳥・鳴き声等 ・観察のマナーについて

問合せ先：(公財)日本野鳥の会 横浜自然観察の森 TEL:045-894-7474

メールアドレス:yokohama-nc@wbsj.org

A-6 身近な自然を学ぼう

～校庭、公園、森、里山での植物や生き物の不思議、発見！～

講義担当：NPO 法人全国森林インストラクター神奈川会

講座対象者	☐ 小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 ■大学生 ■地域一般		
授業活用例	小学校・中学校・高校・大学の総合学習、地域住民・団体・企業等向け環境教育		
関連のあるSDGsのゴール	15. 陸の豊かさを守ろう	オンライン授業	☐ 可 ■不可
対応可能曜日	■平日 ■休日 ■その他(祝日)		
対応時間	9:00～16:00		
年間実施上限数	10回		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(野外、教室、体育館内可能) ☐ ワークショップ() ■自然体験(校庭、公園、森、里山等)		
講座所要時間	3時間以内(相談により延長対応可能)		
実施条件、必要な準備等	教室内の講義の場合は、プロジェクター、PC 及びスクリーン(相談希望)		

講座内容	
身近な自然で、生きている樹木、花、野鳥、昆虫などを一緒に学びましょう！ ・身近な自然の動植物の特徴について五感を使って観察しながら、それらに関わる歴史、文化、生活等も一緒に学びましょう！ ・身近な自然は、校庭、公園、学校林、空地、近隣の森、通学路、田んぼ、畑、里山又は自然観察の森にあります！ ・身近な自然には、今まで気がつかなかった多くの発見、不思議、わくわく感、そして感動があります！ ・身近な自然や森を知れば知るほど親しみが湧き、身近な自然の仲間たちと一緒に生きていることを体感しましょう！ ・紙芝居で、森林と密接な関係のある地球温暖化、生物多様性、光合成、食物連鎖、水源涵養、土砂崩れ・洪水防止、森と海との繋がり、健康等々、森林保全活動を含めた森の大切さを学びましょう！ ・身近な自然でネイチャーゲームやレクリエーションの楽しい自然体験をしましょう。 みんなが知っている身近な自然探し：校庭、学校林、公園、森、田んぼ、畑、原っぱ、里山などで森林インストラクターと一緒に自然の不思議を発見しましょう。	

問合せ先：NPO 法人全国森林インストラクター神奈川会

田中真次 TEL:090-1542-2154

A-7 身近な里山を学ぼう

～校庭、公園、森、里山での植物や生き物の不思議、発見！～

講義担当：名瀬谷戸の会

講座対象者	☒ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	小学校・中学校・高校・大学の総合学習、地域住民・団体・企業等向け環境教育		
関連のあるSDGsのゴール	15. 陸の豊かさを守ろう	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☒ 休日 ☒ その他(祭日)		
対応時間	9:00～16:00		
年間実施上限数	10回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(野外・教室・体育館内可能) ☐ ワークショップ() ☒ 自然体験(校庭、公園、森、里山等)		
講座所要時間	3時間以内(相談により延長対応可能)		
実施条件、必要な準備等	教室内の講義の場合は、プロジェクター、PC 及びスクリーン(相談希望)		

講座内容

・身近な里山で、生きている樹木、花、野鳥、昆虫などを一緒に学びましょう！

・身近な里山の動植物の特徴について五感を使って観察しながら、それらに関わる歴史、文化、生活等も一緒に学びましょう！

・身近な里山には、今まで気がつかなかった多くの発見、不思議、わくわく感、そして感動があります！

・身近な里山を知れば知るほど親しみが湧き、身近な自然の仲間たちと一緒に生きていることを体感しましょう！



・紙芝居を使い、里山と密接な関係のある地球温暖化、生物多様性、光合成、食物連鎖、水源涵養、土砂崩れ・洪水防止、森と海との繋がり、健康等々、森林保全活動を含めた森の大切さを学びましょう！

・身近な里山でネイチャーゲームやレクリエーションの楽しい自然体験をしましょう。

みんなが知っている身近な自然探し：里山、校庭などで森林インストラクターと一緒に自然の不思議を発見しましょう。

問合せ先：名瀬谷戸の会 ・ 田中真次

TEL:090-1542-2154

A-8 トンボとヤゴのとりかた教えます

～トンボに学ぶ トンボで調べる 身近な生き物の世界～

講義担当：トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■地域一般		
授業活用例	1, 2 年生活科 3年理科 身の回りの生き物 昆虫の観察 4年理科 季節と生き物(通年) 6年理科 生物と環境 3～6 年 総合的な学習の時間 クラブ活動 自然科学クラブや生き物クラブなどで身近な水辺の生き物を調べる 地域一般 身近な水辺の生き物を調べ地域環境を理解する		
関連のあるSDGsのゴール	4. 5. 11. 12. 13. 15. 17	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☐ 休日 ☐ その他(☐ 曜日) ☒ 平日		
対応時間	9:00～15:00		
年間実施上限数	3～4回		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(教室などでパソコン、プロジェクターが使える場所) ■ワークショップ(網の使い方や選び方 トンボやヤゴのとりかた) ■自然体験(プール、校庭、近隣公園、池などでヤゴやトンボを採集する)		
講座所要時間	45 分～90分(内容により調整可)		
実施条件、 必要な準備等	講義：パソコンとプロジェクターまたは大型テレビ ワークショップ：虫取り網(あれば) 模造紙とマーカー(グループの数)		

講座内容
1 本講座の目的とねらい 私たちは生物とともにこの地球で生活しています。このプログラムではトンボを通して生物の不思議さについて直接経験することができます。この学習をきっかけに子どもたち、参加者の皆さんは身近な自然の面白さに気づくことでしょう。さらに SDGs を自分自身の課題としてとらえ行動できる子どもたちを共に育てましょう。 2 内容 映像や実物の網などを使いコミュニケーションをとりながら活動を進めます。以下の例をもとに参加者に適したプログラムを組むことができます。 ○トンボのひみつ「トンボのうんち、見たことあるかな？」 クイズ形式でトンボの体のつくりやライフサイクル、生息場所などを学習します。 ○やってみよう！「トンボとり」「すばやく飛ぶトンボ。どこにいけばとれるかな？」 動画を視聴して網の使い方など、トンボとりのイメージトレーニングをします。 ○外に出てトンボとりをしてみよう 公園や校庭で実際にトンボやそのほかの虫取りをして写真とワークシートに記録します。 教室に戻りそれらの種類と数、場所などを地図や表にまとめます。 ○考えよう「トンボのためにできること」「トンボとわたしたちの暮らし」 身近な自然の大切さや面白さ、トンボと環境などをテーマにワークショップをします。

問合せ先：トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

メールアドレス：keihin@tomboforum.com

A-9 「横浜の生き物と環境」

～身の回りの生き物や横浜の環境について知ろう！学ぼう！～

講義担当:みどり環境局環境科学研究所

講座対象者	□小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 ■大学生 ■地域一般		
授業活用例	横浜の時間、小学校中学年「理科:身の回りの生物」、小学校高学年「理科:生物と環境」		
関連のあるSDGsのゴール	15 	オンライン授業	■可 □不可
対応可能曜日	■平日 □休日 □その他(曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	5回		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(屋内:パソコン、プロジェクターが利用できる教室、会議室等) □ワークショップ() ■自然体験(屋外:公園、校庭等)		
講座所要時間	45分程度		
実施条件、 必要な準備等	講義の場合、パソコン、プロジェクター、ポインターの準備をお願いします。		

講座内容

1 本講座の目的・ねらい

環境科学研究所が作成した小冊子や、生き物の調査結果などを使用して、生き物への関心を高めてもらうとともに、身の回りの自然の大切さや生物多様性について考えるきっかけを作ります。

2 内容

講座内容や実施時間については、ご希望に添えるよう検討しますので、お気軽にご相談ください。

講座の例

■【講義】横浜市の生き物・生物多様性について

よこはまのいきものハンドブック※1を使用し、横浜の環境やそこにすむ生き物、外来種などについて、クイズを交えながら楽しく学びます。

※1 横浜市内で見られる生き物 86 種を紹介した環境科学研究所作成のハンドブック。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/books.html>

■【講義】こども「いきいき」生き物調査の紹介・ふりかえり

市内の小学5年生を対象に毎年実施している生き物アンケート調査※2の結果から、市内でも地域によって見られる生き物が違うことや、増えている生き物、減っている生き物がいることなどを学びます。

※2 過去1年間に家や学校の近くで見つけた生き物に○をしてもらう調査。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/tayosei/ikiiki.html>

■【実習・体験】学校や身の回りの生き物探し

学校内にどんな生き物がいるのかを調べ、生き物のすむ環境や地域の魅力、大切さについて考えるきっかけを作ります。



学校内での生き物探し

問合せ先:みどり環境局環境科学研究所 TEL:045-453-2550

メールアドレス:mk-kanken@city.yokohama.lg.jp

A-10 「生物多様性」を考えてみよう

講義担当:みどり環境局環境活動事業課

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 ■大学生 ■地域一般		
授業活用例	小学校低学年「生活科」、中学年「理科：身の回りの生物」、高学年「理科：生物と環境」		
関連のあるSDGsのゴール	11、14、15		オンライン授業 ☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	■平日 ☐ 休日 ☐ その他()曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	3回(日程があれば3回を超えても開催できる場合があります)		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義 (パソコン、プロジェクトが利用できる教室、会議室等) ■ワークショップ (教室内で紙コップを使ったワークショップ) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45～90分(調整可能)		
実施条件、 必要な準備等	パソコン、プロジェクト、DVDプレイヤーの準備をお願いします。		

講座内容

1 講座の目的・ねらい

私たちの生活は、植物・動物などたくさんの生きもののつながりの恵みにより成り立っています。生きものたちが住む自然に感謝し、なぜ保全する必要があるのかを知り、考え、行動のきっかけをつくります。

2 内容

(1)～(3)から選んで講義できます。時間は目安です。
ご要望に応じて内容の調整ができますので、事前にご相談ください。

(1)生きもののつながりの大切さについて(約 20 分)

生きものたちがつながり合う豊かな自然から得られる多くの恵みによって、私たちの生活が成り立っていることや、私たちの生活が自然に与えている影響(危機)を受講者の皆さんと一緒に考えます。

(2)生きもののつながりを考えるワークショップ(約 25 分)

- ・自然や動物のイラストを描いた紙コップを使って、屋内でも生きもののつながりを体感できます。外来生物の勉強にも活用できます。
 - ・生物多様性まんだらカードゲームで連想ゲームをしながら私たちの生活が様々な自然の恵みとつながっていることを実感できます。
- ※人数が多いと時間がかかります。



(3) その他(大学生以上向け)

生物多様性に関する横浜市の施策・取組の説明も可能です。

問合せ先:みどり環境局環境活動事業課

TEL:045-671-2484 メールアドレス:mk-kyoiku@city.yokohama.lg.jp

B-1 海の森からの贈り物 海を学ぼう

～楽しい海藻アート教室～

講義担当：海藻おしば協会神奈川

講座対象者	☒ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	総合学習・社会(漁業)・理科(光合成)・国語(海藻押し葉の場合手紙の書き方)		
関連のあるSDGsのゴール	14・15	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日(要相談) ☐ その他(曜日)		
対応時間	9時から17時(夜は要相談)		
年間実施上限数	特になし(可能な範囲で対応)		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(教室・体育館 人数に応じて) ☒ ワークショップ(海藻おしば→水場が近い事理科室・家庭科室など。海藻万華鏡→教室・体育館など) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	60～90分(要相談)		
実施条件、必要な準備等	映像やスライドがあるためスクリーン(モニター)・プロジェクターなど		

講座内容

【レクチャー】

普段食卓にもあがる海藻は、海の中で森を作る。その森は、海の生き物にとって重要な役割をしている。私たちが生きる上でも重要な存在である。この講座は、海の森の大切さ、海・川・山自然のつながりをクイズや水中映像：ようこそ海の森へ(11分)を使用し楽しく海の環境学習を目的としている。

※年齢層に合わせ海の自然に興味関心を持ってもらうように実施



【工作体験】

講師が事前に浜辺で拾った漂着海藻を使用して海藻アート楽しむ。海藻おしばのポストカード作り又は乾燥の海藻素材を使用し海藻万華鏡作りを実施する。

※講義と工作の2本立てであるが、海のお話の部分だけでも可能

工作体験だけは実施していない。海・自然を学ぶことを目的としている。

※材料費 別途必要



問合せ先：海藻おしば協会神奈川 TEL:090-3472-2034

メールアドレス:kaisou048kyoukai@gmail.com

B-2 出張 下水道場

～調べてみよう！トイレの先に続く道～

講義担当:下水道河川局水質課

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☐ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	長期休みのイベント等		
関連のあるSDGsのゴール	6、14	オンライン授業	☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	10時～17時		
年間実施上限数	月1回まで(それ以上は応相談)		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(屋内:パソコン・プロジェクターが使用できる部屋) ☒ ワークショップ(屋内:顕微鏡観察ができる部屋) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	60分		
実施条件、必要な準備等	・顕微鏡や模型を置くための机、電源、水道の準備をお願いします。 ・Wi-Fiルーター、PC、プロジェクター(またはモニター)をご用意いただければ、オンライン対応可能です。		

講座内容

1 講座の目的・ねらい

普段意識することのない下水道が、私たちの生活に深く関わり、大事な役割を果たしていることを学びます。下水道を身近なものと感じてもらい、水環境への興味をいなくきっかけをつくります。

2 内容

(1) 講義(約 15 分)

アニメーションを使用して低学年の児童にも分かりやすく、下水道の役割と私たちの生活との関わりを説明します。

(2) 顯微鏡觀察(約 15 分)

汚れの浄化に大きくかかわっている微生物を、単眼顕微鏡を使ってビンゴゲームをしながら観察してもらいます。

※オンライン授業ではライブ配信または動画配信を行います。

(3) 実習(約 15 分)

トイレットペーパーやティッシュペーパー等の水への溶け方の違いを実験します。

※オンライン授業では実験キットを送付いたします。



顕微鏡観察の様子

問合せ先:下水道河川局水質課 TEL:045-621-4343

メールアドレス: gk-sui-chousa@city.yokohama.lg.jp

メールアドレス:mk-midorikoho@city.yokohama.lg.jp

B-4 「身近なしぜんのあそび方」

～足もとの植物と友だちになろう～

講義担当:NPO 法人街カフェ大倉山ミエル

[illegible]

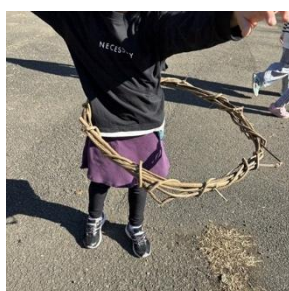
講座内容

◆ねらい

普段行く公園で、五感を使って自然と触れ合う。
自然に対する「新しい視点」を楽しみながら身につける。

◆内容

都市公園でもできる、その場だからこそできる自然体験を中心にプログラムを実施します。



食べられる実がなる樹木、毒のある草、においがする葉、つる植物など、基本的にその季節・その場にある自然物を使用し、自然の不思議に触れる、季節を感じるアクティビティを行います。野外体験指導経験豊富な森林インストラクター・自然あそびインストラクターが自然でのあそび・学びに同行します。

問合せ先:NPO 法人街カフェ大倉山ミエル TEL:090-1450-0093

メールアドレス:miyo@dongrisizenasobj.com

B-5 まちの中の森づくり活動

～木の働きや、木を使うことの大切さを知ろう！～

NPO 法人こどもリクラブ

講座対象者	☒ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	小1～6年 生活科、『横浜の時間』		
関連のあるSDGsのゴール	12	オンライン授業	☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	☐ 平日 ☐ 休日 ☒ その他(火・木曜日のいずれか)		
対応時間	10時～16時		
年間実施上限数	5回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(パソコン・プロジェクターが使える教室、視聴覚室など) ☒ ワークショップ(木に親しむ体験として「木を磨く体験」をします) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45分		
実施条件、必要な準備等	・お伺いするのに1時間以上かかる場合は、オンラインでの講座をお願いします。		

講座内容

1. 本講座の目的・ねらい
『循環する森』をキーワードに、木の良さや働きを知るだけでなく、日々の生活の中で木を使っていくことの大切さを伝えます。本講座を通して、自然環境・地球環境に対して興味関心を持つきっかけを与えて、実際に自然環境に働きかけをしていけるようになることを目指しています。
2. 講座の内容
森林から適切な時期に、適切な量の木材を切り出すことで、森林の新陳代謝を促すとともに、まちの中に森林機能を再現し、CO₂の削減に貢献することをわかりやすく説明します。
3. 講義の形式
・クイズを盛り込んだ内容、パネルを使っでの視覚からの学び等、退屈しない工夫をしています。(約20分)
・小さな木の切れ端(木っ端)を紙やすりで磨く体験をします。磨いていく過程での、木の温もりや香り等を実際に感じてもらいます。木っ端には、後から色を塗ったり絵を描いたりして、穴を開けてひもを通せば、自分だけのオリジナルストラップに仕上げられる楽しみもあります。木の枝で作った木琴の音色も楽しめます。(約25分)



問合せ先:NPO 法人こどもリクラブ TEL: 045-771-3143

メールアドレス:kanagawa@kodomoriclub.jp

B-7 「横浜の海と海の生き物たち」

～横浜の海を知ろう、海を身近に感じよう！～

講義担当：みどり環境局環境科学研究所

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 □中学生 □高校生 □大学生 □地域一般		
授業活用例	生活科：身近な自然の観察(小学校1～2年)、理科：身の回りの生物(小学校3年) 道徳：自然愛護、生命の尊さ(小学校1～6年)		
関連のあるSDGsのゴール	12、14	 	オンライン授業 ■可 □不可
対応可能曜日	■平日 □休日 ■その他 （土曜日の開催については応相談）		
対応時間	9時～17 時		
年間実施上限数	5回(日程次第で5回以上の開催可)		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義 (屋内：パソコン、プロジェクターが利用できる教室、会議室等) ■ワークショップ (まちがい探しゲーム、魚釣りゲーム等) □自然体験()		
講座所要時間	45 分～60 分		
実施条件、必要な準備等	パソコン、プロジェクターの設備があることが望ましいです (プロジェクターがない場合講師が持参することも可能です)。		

講座内容

1 本講座の目的・ねらい

横浜の海とそこに棲む生き物についての講義やクイズ、ゲームなどを通じて、海に対する興味を引き出すとともに海の環境問題について考え行動するきっかけをつくります。

2 内容(実施時間に応じて内容、時間を調整します。)

(1)【講義】《パワーポイント》横浜の海はどんなところ？(20 分)

1.横浜の海の生き物(よく見られる生き物、面白い生き物)

2.横浜港の環境問題

(2)【講義】みんなで考えよう！横浜の海(15 分)

海の環境問題についてクイズを出して、理解を深めてもらいます。

○出前講座の方法によって以下の【実習】の内容が変わります
 ご依頼の際に選択してください。

(3)【実習】1分クイズ！どこかわるかな(10 分)

「間違い探しゲーム」を通じて、楽しみながら横浜の海の生き物について学んでもらいます。

(4)【実習】横浜の海の魚を釣ってみよう(15 分)

※オンラインの場合は実施できません

「魚釣りゲーム」を通じて、楽しみながら横浜の海の生き物について学んでもらいます(人数次第でグループを分ける等の対応をします)。

※可能な限りご希望に添えるように検討しますので、気軽にご相談ください



授業スライド



魚釣りゲーム



オンラインでも可能です！

問合せ先：みどり環境局環境科学研究所 TEL:045-453-2550

メールアドレス：mk-kanken@city.yokohama.lg.jp

メールアドレス:t arai@tjas.co.jp

B-9 竹を学校や地域で循環させて

コトづくりに挑戦！

～地域資源としての竹の利活用～

講義担当:スパイスアップ SOZAI 循環 Lab

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	竹を学校や地域で循環させてコトづくりに挑戦しよう！		
関連のあるSDGsのゴール	主:12 副:2,6,7,8,9,11,13,14,15	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☒ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	8:30-17:00 ※時間外も応相談		
年間実施上限数	6セット		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(教室で、プロジェクタを使って当方が説明し、質疑応答型で進めます) ☒ ワークショップ(屋外や室内で、数人ずつのチームを組んで作業します) ☒ 自然体験(地域の竹林に出向いて、竹を間伐します)		
講座所要時間	プログラム 0～5(講座内容をご参照ください)のいずれも各 80 分/回		
実施条件、必要な準備等	・プログラム 0 は必須、6 の実施を目標に 1～5 から 1 つ以上選択ください。 ・竹を切る際に鋸を使います。竹の炭化は消防署への火災発生届が必要です。		

講座内容
【目的とねらい】 日本古来、身近な竹。かつてタケノコの産地であった横浜には今もなお小さな竹林がたくさんあります。しかし竹の利用が減った現代においては「放置竹林」が社会問題化しています。本講座では、厄介者扱いされる竹の価値をみんなで見直し、自然・脱炭素・サイエンス・アート・ものづくりの多面的アプローチで、地域や学校に新たな発見や感動を生む「コト」をみんなでつくります。 【特徴】※0～6 すべてを実施した場合 ・竹の生態、時代背景、多様な活用法等、竹の包括的知識習得 ・モノづくりやアート表現を通した発想力・創意工夫の体験 ・自分の行動がよりよい環境や人々の感動につながる実感 【プログラム】 ※0 は必須、6 の実施を目標に 1～5 から 1 つ以上選択 0. 竹と竹林について知る・調べる・考える(教室) 1. 竹を地域の公園等から切り出す(竹林) 2. 竹を切る・割る(竹林 or 校庭 or 図工室) 3. 竹でモノづくり(教室 or 図工室) 4. 竹を炭化(炭焼き)する(校庭や花壇など) 5. 竹炭墨汁を作ってアートに挑戦する(教室 or 図工室) 6. 学校や地域のイベントに参加する or 主催する



問合せ先:スパイスアップ SOZAI 循環 Lab

メールアドレス:sozaijunkanlab@gmail.com

メールアドレス: gk-riverkikaku@city.yokohama.lg.jp

(神奈川県木造住宅協会 Web ページ:<http://www.kanakyo.jp/>)

C-2 「音」とくらし

～音のふしぎを体験してみよう～

講義担当：横浜市みどり環境局 大気・音環境課

講座対象者	☒ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	生活、理科、横浜の時間、夏休みの自主研究のイベント		
関連のあるSDGsのゴール	4、11	 	オンライン授業 ☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	5回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(音が聞こえるしくみなど)) ☒ ワークショップ(糸電話の製作など)) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45～90 分(ご要望に応じて調整します)		
実施条件、必要な準備等	応相談		

講座内容
■本講座の目的・ねらい 糸電話を自分で実際に作り、音に関する楽しい体験をしながら音のしくみ、大きさ、種類、音の感じ方等、音に関する知識を身につけ、音や身の回りの環境問題に気づき、理解と関心を持ってもらう。 ■内容 (1) 講義(約10～20分:PowerPoint 使用) 音とは何か、音が聞こえるしくみ 音の単位(デシベル)などの解説など 実際に騒音計を触って体験していただけます。 (2) 実習(約30～60分、内容は取捨選択可能) 糸電話、針金電話、風船電話を作り、音質、音量を比較確認する パソコンを用いて音(モスキート音)を聞いてみる (3) まとめ(約5～10分) 実習・体験のまとめ 普段の生活のおいての音で迷惑をかけないためのルールについて

問合せ先：みどり環境局 大気・音環境課 TEL:045-671-2485

メールアドレス：mk-souon@city.yokohama.lg.jp

C-3 SDGsと食品ロス～今すぐできる食品ロス削減～

講義担当：松島麻美(サステナビリティ教育研究会)

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	小3,4年社会「廃棄物の処理」 6年理科「自然環境を大切にする」 5,6年家庭科「環境に配慮した家庭生活の工夫」 5,6年道徳「自然環境を大切に」 小3-6年,中学生総合「ESD」 6年「平和スピーチコンテストの導入」など		
関連のあるSDGsのゴール	全て	オンライン授業	☒ 可(校内配信拠点から各クラスへの配信授業の実績あり) ☒ 不可(校外拠点からの配信は不可)
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	9時～15時		
年間実施上限数	5回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(プロジェクターかテレビがある教室) ☒ ワークショップ(グループ内活動)		
講座所要時間	40分×2コマ、または、45分×2コマ		
実施条件、 必要な準備等	○スライドをうつすプロジェクターまたはテレビ、HDMIコード		

講座内容

2025年度実績:5校

1 講座の目的・ねらい

横浜市内の学校で学校司書として勤務しているバックグラウンドを活かし、子どもに寄り添った言葉でSDGsを説明。カードゲームを通じて、つついちゃうってしまう食品ロス行動に気付き、その対策を話しあい、子どもの行動変容、継続的な習慣化を狙う。食品ロス対策がSDGsに繋がることを理解してもらう。

2 内容

導入：発展途上国の様子が写っている写真絵本を見せ、SDGsを説明。

①SDGs12「つくる責任つかう責任」に意識を向け、自分たちにできることのうち「食品ロス削減」にフォーカスする。

②食品ロスの概要説明。

④グループ内でカードゲーム

つついちゃうってしまうカード、食品ロス対策カードについて説明する際、講師の具体的なエピソードを話すことで、子どもたちの身近な食品ロス体験や具体的な対策意見を引き出す。

⑤まとめ、感想発表、アンケート記入

※当該クラスの実態、先生のご要望に合わせて内容をカスタマイズできますので、事前打合せの際に希望をお聞かせください。

1.食品ロスにつながる行動～つついちゃうんだよね～



C-4 地球温暖化で天気が変わっている！

大雨への備えを考えよう

特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 □高校生 □大学生 □地域一般		
授業活用例	3～6年生(総合的学習の時間)環境 4年生(社会)自然災害にそなえるまちづくり 5年生(社会)自然をともに守る／ 環境をともに守る 5年生(理科)流れる水と土地 ／ 天気の変化 6年生(理科)人と環境		
関連のあるSDGsのゴール			オンライン授業 ■可 □不可
対応可能曜日	■平日 ■休日 □その他(曜日)		
対応時間	9 時～17 時		
年間実施上限数	なし		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(教室・体育館など) ■ワークショップ(教室・体育館など) □自然体験()		
講座所要時間	45 分(1 コマ)		
実施条件、 必要な準備等	プロジェクター、スクリーンまたは大型テレビ、筆記用具		

講座内容

1. 講座の目的・ねらい

地球温暖化によって、近年大雨の被害が増えています。
地球温暖化について学び、大きな災害に備えるために、
マイタイムラインを作成しましょう。

2. 内容

- ・2100 年未来の天気予報
- ・突然の大雨に注意
- ・大きな災害に備えるために、マイタイムラインを作ろう！

マイタイムラインを作ってみよう

- ひなんの用意
- ひなんをはしめる
- ひなんできた！

いつやるか、考えてみよう

2100年 台風情報	
台風10号	
中心気圧	895 hPa
最大風速	65 メートル
最大瞬間風速	90 メートル

問合せ先:特定非営利活動法人 気象キャスターネットワーク

メールアドレス:wcn-info@weathercaster.jp

メールアドレス:wakueco@nissan-nics.co.jp

C-7 ソーラーランタン

「おもしろ環境教室」

講義担当：(NPO ブルーアース)三竿 郁夫

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☐ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	電気を大切に使うことを啓発する環境授業		
関連のあるSDGsのゴール	7	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☒ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	10 時～17 時		
年間実施上限数	3 回(時間が合えば追加が可能)		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(理科室、調理室 。パソコン、プロジェクター使用) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	90 分		
実施条件、 必要な準備等	パソコン、プロジェクター。(道具等の詳細は事前打合せで提示します) 教材費について：人数により変わりますが、300 円～500 円の教材費をいただきます。(出来上がったソーランランタンは、持ち帰ることができます。)		

講座内容

1. 講座の狙い

防災にも使えるきれいなソーラーランタンを作ります。
ソーラー・LED を活用することそして電力や電気料金についても学習し、“電気を大切に使う”という意識を持って地球環境について考えるようになって欲しい。

2. 内容

- (1)ペットボトルを持参し、ガーデンライトと LED コースターを活用して、綺麗なソーラーランタンを作る。
- (2)測定器を使っていろいろな電灯の電力を測り、1月の電気代を試算する。
- (3)ソーラーパネルや LED が電気を大切に使うことに役立つことを説明する。
- (4)電気代を減らすにはなにをすれば良いかを一緒に考える。



問合せ先:NPO ブルーアース TEL:080-3088-2978

メールアドレス:ikuomisao@gmail.com

メールアドレス:kenichi yoneda2000@ymail.ne.jp

C-9 気候変動で発生する自然災害と対策

～災害大国日本の JICA から派遣された国で取り組んだ災害対策～

講義担当:前川貴夫(NPO 法人シニアボランティア経験を活かす会)

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	小学 5・6 年「社会科」、中学1～3年「SDGs」、高校1～3年生「SDGs と国際理解」		
関連のある SDGs のゴール	11, 13, 15, 17	オンライン授業	☒ 可 ☐ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☒ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	10 時～17 時		
年間実施上限数	日程があれば上限はありません		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(教室、会議室等) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45～100 分(最長 100 分には質疑時間を含む)		
実施条件、必要な準備等	プロジェクターとスクリーンまたは大型モニター、体育館で実施の場合はマイクとスピーカーの準備をお願いします		

講座内容

1. 講座の目的・ねらい

JICA から派遣されたモロッコは砂漠が多く基本的に乾燥しているが、年に数回の洪水を伴う豪雨により人的被害が発生していた。同じくマレーシアは熱帯性の気候により洪水を伴う人的被害が多発していた。災害大国の日本からネットワーク通信技術を紹介する立場で両国へ派遣され、各種センサーにより収集した情報から避難警報を伝達するネットワーク構成まで、システムを試作して地元自治体にも防災体制の向上を働きかけてきた経過を SDGs 目標 13:「気候変動に具体的な対策を」との関係を中心に紹介する。

2. 内容

- (1) 自己紹介と日本国内での自然災害の被災経験について(10 分)
- (2) モロッコの暮らしと文化について(10 分)
- (3) モロッコの自然災害への対策および日本からの支援について(20 分)
- (4) マレーシアの暮らしと文化について(10 分)
- (5) マレーシアの自然災害への対策および試作した洪水予知警報システムについて(20 分)
- (6) 日本で皆さんに求められる自然災害への対策について(20 分)



最後の項目の時間については参加者、学生、生徒の皆さんの意見も踏まえて、柔軟に対応できていると考えている。

＜干口ツコの洪水警報システム＞

問合せ先:NPO 法人シニアボランティア経験を活かす会

メールアドレス:jjcasvobedu@gmail.com

C-10 快適な住まい方を考えよう！

～自然を活かして涼しく(暖かく)住むには、どうしたらいいのだろう～

講義担当:こどものためのオープンハウス

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	小５～６年(要相談)小学校５～６年家庭科「快適な住まい方を考えよう」		
関連のあるSDGsのゴール	7、11、13	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	1回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(屋内：パソコン、プロジェクターが利用できる教室、会議室等) ☒ ワークショップ(涼しいところ、暑いところ探し。熱の移動の実験等) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45分～90分		
実施条件、必要な準備等	学んだことを、その先にどう発展させるのかなど、事前に打ち合わせをし、それに向けて対応したいと思います。 説明はパワーポイントで行いますが、設備がなくても対応は可能です。 実験に使用する計測機器(放射温度計)などは、こちらで用意します。 ※時間や内容、お気軽にご相談ください。		

講座内容

どんなときに人は涼しい・温かいと感じるのか？
様々な実験と体感を通じて、その仕組みを学びます。
また、蒸発や放射などの熱の伝わり方の基本を知ること
で、エアコンに頼らなくても学校や家で快適に過ごすための知識を身につけることができます。
将来、子どもたちが自発的に環境に優しい行動を行うきっかけになり得る授業です。

※夏バージョンの例です。

＜展開1＞涼しいところはどんなところ？

- ・涼しいところ、暑いところを探し、涼しさ暑さを実感する。
- ・体感と計測で、その違いとその理由を学ぶ。

＜展開2＞自分自身を涼しくする方法を考えてみよう。

- ・様々な実験により、涼しくする方法を体感する。

例)霧吹きとうちわを使った蒸発の実験

＜展開3＞家を涼しくする工夫を考える。

- ・家を涼しくするためのポイントを実験や映像で確認する。
- ・家を涼しくする工夫について、実例から学ぶ。

※上記は過去の事例です。

※同じ様な流れで冬バージョンもあります。

※授業用に学ぶことができる先生向けの講座のご用意もあります。



問合せ先

建築局建築企画課 TEL:045-671-4526 メールアドレス:kc-casbee@city.yokohama.lg.jp

C-11 「よこはまの暑さを学ぼう」

～暑さの原因を知り、自分たちのできることを考えよう～

講義担当:みどり環境局環境科学研究所

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	「理科」、「総合的な学習の時間」		
関連のあるSDGsのゴール	11、13  	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	9時～16時		
年間実施上限数	4回(7～9月は業務繁忙のため、お受けできない場合があります)		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(屋内:パソコン、プロジェクターが利用できる教室等) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45分程度(要相談)		
実施条件、必要な準備等	PC(パワーポイントが起動するもの)、スクリーン(モニター)、プロジェクター		

講座内容

1 本講座の目的・ねらい

地球温暖化などの気候変動やヒートアイランド現象の影響により、横浜の夏の暑さが厳しさを増しています。熱中症にならないためには、日頃から暑さに備える工夫をすること(暑さに適応すること)が必要です。

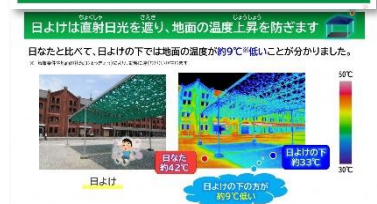
本講座は、暑さにまつわる様々な内容の理解を深める講義を通じて、暑さに適応していくために自分たちがこれからできることを考えるきっかけを作ることを目的としています。

2 内容

簡単なクイズを交えながら講義を行います。ご要望に応じて内容を調整しますので、お気軽にご相談ください。

<例>

- 地球温暖化やヒートアイランド現象のメカニズム
- 横浜市の暑さの現状について
- 気候変動対策(緩和策・適応策)やヒートアイランド対策
- 環境科学研究所が行っている暑さに関連した調査結果
- 身近で実践できる暑さ対策の紹介



問合せ先:みどり環境局環境科学研究所 TEL:045-453-2550

メールアドレス:mk-kanken@city.yokohama.lg.jp

C-12 「海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題 について考えてみよう」～ここ横浜ではどうなっているの?～

講義担当:みどり環境局環境科学研究所

講座対象者	■小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 ■大学生 ■地域一般		
授業活用例	小学校:「生活」、「理科」、「社会」、「家庭」、「総合的な学習の時間」 中学校:「理科」、「社会」、「技術・家庭」、「総合的な学習の時間」		
関連のあるSDGsのゴール	 	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	10～16時		
年間実施上限数	応相談		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(屋内:パソコン、プロジェクターが利用できる教室、会議室等) ■ワークショップ(同上) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45～90分(時間は応相談)		
実施条件、必要な準備等	パソコン(パワーポイント)、プロジェクターの設備があることが望ましいです。 ない場合は紙資料で実施します。		

講座内容

1 本講座の目的・ねらい

海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題について基本的なことを学び、私たちにどのようなことができるのかを一緒に考えていきます。

2 内容(実施時間に応じて内容、時間を調整します。)

(1)【講義】《パワーポイント》海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題とは(30分程度)

海洋プラスチック・マイクロプラスチック問題について、基本的なことや世界の動向、横浜の実態をお伝えします。また、この問題について、私たちにどのようなことができるか一緒に考えます。

※ご要望に応じてグループディスカッションによる討議も行います。

(2)【実習】マイクロプラスチックを観察してみよう(15分程度)

環境科学研究所で実施している海岸のマイクロプラスチック調査の模擬体験を行います。

実際の横浜の海岸の砂の中から、マイクロプラスチックを探し、観察・記録してもらいます。実習を通じて、この問題について理解を深めます。

※小学校低学年向けに内容の変更が可能です。お気軽にご相談下さい。



問合せ先:みどり環境局環境科学研究所 TEL:045-453-2550

メールアドレス:mk-kanken@city.yokohama.lg.jp

C-13 木の使い方を考えよう！

～ 森林と私たちの暮らしをつなぐ「木材」の学習 ～

講義担当:神奈川県木材業協同組合連合会(神奈川県木連)

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	社会（国土・森林）総合 図工 等		
関連のあるSDGsのゴール	11,12,13,15	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	平日 9時～17時		
年間実施上限数	1回		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(場所:教室や図工室など内容によりご相談) ☒ ワークショップ(場所:教室や図工室など内容によりご相談) ☐ 自然体験()		
講座所要時間	1クラス 1時限程度		
実施条件、必要な準備等	授業の中にどう組み入れるのか等、 事前に打ち合わせをし、それに向けて対応したいと思います。 ※時間や内容、お気軽にご相談ください。		

講座内容	
◆授業のねらい 暮らしの中でどのように木が使われているのか？ 材木店の方から木材の性質や使われ方を学ぶとともに、子どもたちが木に触れながら木材への興味や関心を広げ、「生活で木を選ぶ」という環境行動につなげる授業です。 <pre> graph LR A[木材] --> B[森林] B --> C[材木店] C --> D[私たち] style C stroke-dasharray: 5 5 </pre> 授業で森林について学んだあとに受講すると、実際の木材活用について理解が深まります。	
・身近な暮らしの様々なところで木材が利用されていることを知る。 ・木の特性や役割、魅力を五感で体験する。 ・日常生活で「木を選ぶ」行動が、森林や環境保全につながることに気づく。 ◆講師：地域の材木店の方（神奈川県木連） ・住宅や家具などに使う木材を選び、仕入れ、私たちに届ける「木の専門家」です。 ◆コンテンツ（一例） ・かながわの森の木を知ろう ・五感で楽しむ「樹種あてクイズ」 ・木材がつくる快適な暮らし	・木の個性や使われ方を学ぼう ・家づくりで活躍する木を知ろう ※内容・時間など、気軽にご相談ください。

メールアドレス: do-bus@city.yokohama.lg.jp

C-15「クロネコヤマト環境教室」

～自分たちでできる環境への取り組みを考えよう！～

講義担当: ヤマト運輸株式会社サステナアンバサダー

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☒ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☒ 放課後施設利用児童 ☐ 中学生 ☐ 高校生 ☐ 大学生 ☐ 地域一般		
授業活用例	社会科、総合的な学習の時間		
関連のあるSDGsのゴール	12、13、15	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(曜日)		
対応時間	9 時～17 時		
年間実施上限数	制限なし		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(PC、プロジェクター(TV、モニター)が利用できる教室、体育館など) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45 分～60 分		
実施条件、必要な準備等	7 月および 12 月は弊社繁忙期にあたるため、実施については個別にご相談ください。		

講座内容
【ねらい】 物流と環境問題における諸課題への理解を深め、日常生活の中で自発的に取り組める工夫や努力を検討し、主体的な行動へとつなげる。 【内容】 ヤマト運輸の環境活動を題材とした出前授業プログラム。 ・前半:環境への取り組み紹介(クイズ形式) ヤマト運輸の 2050 年までの温室効果ガス排出量ゼロ目標を解説。目標達成に向けた 4 つの取り組み(太陽光発電、EV 車の導入、再配達の削減、環境にやさしい制服)をクイズで紹介。 ・後半:グループワーク ワークシートを使用し、「家の中・街の中・学校」といった身近な場面でできるアクションを議論。個人の行動が地球の未来につながることを学び、共有する。 【活動例】45 分間の場合(時間応相談) ・ ヤマト運輸の環境活動について(10 分) ・ 環境について (10 分) ・ グループワーク、終了(25 分)

問合せ先:ヤマト運輸株式会社 神奈川主管支店 TEL:045-500-5152
メールアドレス:01000209@kuronekoyamato.co.jp

メールアドレス:otakem65@keb.biglobe.ne.jp

D-2 今から SDGs

～プラ汚染・温暖化対策～

講義担当:横浜温暖化防止推進会議

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☒ 大学生 ☒ 地域一般					
授業活用例	理科や社会の授業として実施					
関連のあるSDGsのゴール				オンライン授業	☒ 可	☐ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☒ 休日 ☐ その他(曜日)					
対応時間	8時半～17時					
年間実施上限数	特に限定しない					
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(映像を視聴できる環境下の教室や部家) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()					
講座所要時間	45～60分					
実施条件、必要な準備等	会場および映写設備一式(演者は資料パソコンを持参のみ)					

講座内容

他人事でないことを知って頂く工夫と対象者により資料表現等を考慮して講座を行う努力をしています。

1) プラスチック(プラ)ごみ汚染

- ① プラの生産量、その主用途、環境への流出量及び汚染実態を知る。
- ② マイクロ(ナノ)プラの生体影響の最新情報を知る。
- ③ プラごみ汚染は主に首都圏を流下する河川が源とされる。市内を流れる帷子川のごみ種を分析するとゴミ集積所からの散乱ごみが多いことが分かった。
- ④ レジ袋が有料化されて以降、河川ごみとしては激減したが、薄く半透明のフィルム状の袋は多く見つかる。
- ⑤ プラごみ汚染はその使用削減とともにごみの収集が必須
- ⑥ 今から始めましょう！

2) 温暖化対策

- ① 温暖化がなぜ起こるかを分かりやすく、正しく理解することが大事な出発点となる。
- ② 温暖化がこれから人類や生物に与える計り知れない影響を理解しなければならない。
- ③ 国のCO₂削減目標、市の目標と今どの地点にいるのだろうか？
- ④ どうすれば温暖化影響を小さくすることが出来るのだろうか？
- ⑤ あなたの目標は？私たちがやるべきことは何だろうか？
- ⑥ 今から始めましょう！

問合せ先:横浜温暖化防止推進会議 TEL:080-9405-5664

メールアドレス: thsky@tbg.t-com.ne.jp

メールアドレス: mail@recycledesign.or.jp

メールアドレス: matasaburo-kaze@ymobile.ne.jp

メールアドレス: ikuomisao@gmail.com

メールアドレス:seitenaz@gmail.com

D-7 アルミ缶自動炊飯

～効率のいい燃焼。リサイクルの話～

講義担当:(NPO ブルーアース)松岡 成典

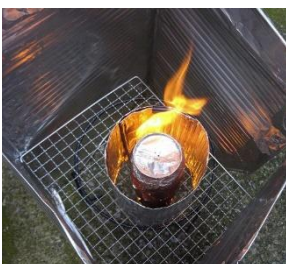
講座対象者	□小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 ■中学生 ■高校生 □大学生 ■地域一般		
授業活用例	6年燃焼の仕組み。4, 5, 6年社会的事業の見方考え方(リサイクル)		
関連のあるSDGsのゴール	12	オンライン授業	□可 ■不可
対応可能曜日	■平日 ■休日 □その他(曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	3回(時間が合えば追加が可能)		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(理科室、調理室。パソコン、プロジェクター使用) □ワークショップ() □自然体験()		
講座所要時間	90分		
実施条件、 必要な準備等	パソコン、プロジェクター、水道。(道具等の詳細は事前打合せで提示します) ※裸火を使用するため事前の実演にて内容を確認いただき、実施の可否をご判断下さい。		

講座内容

1. 講座の狙い: 普段ゴミとして捨てているアルミ缶と牛乳パックをコンロと燃料に加工することで熱源として活用できることを知る。合わせてアルミ缶と紙パックのリサイクルについて学ぶ。
2. 内容(1)本コンロを教材として効率よく無煙で燃やす省エネ&低公害の仕組みを学習する。
(2)工作(個人)⇒アルミ缶でお釜を作る。牛乳パック1枚をロール状に加工する。
注: 中学生以上はコンロ作成も実施可能(小学生は提供します)
(3)グループ⇒提供されたコンロにロール状の燃料を一つ入れてご飯を炊き試食する。
(4)試食前の蒸らし時間でアルミと紙パックのリサイクルの流れとリサイクル率を学習する。
(5)まとめ
普段ゴミに出すアルミ缶や牛乳パックが簡単に加工できコンロとして活用ができる。
自宅に必要量ストックし普段から活用。
コンロは数回以上再利用できますが使えなくなったらリサイクルに出す。
3. ひとこと: ゴミでもひと工夫すれば立派なコンロとしてリユースできる。
★炊飯動画 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=xNCvJWPhKr4>



炊飯動画URL



【注意事項】

裸火を使用するため必ず事前打ち合わせを行い、実際に炊飯して確認いただくと同時にチェックリストにて様々なリスクや消火栓の有無、消火器の確認等を行い実施させていただきます。

問合せ先: NPO ブルーアース TEL: 045-774-3564

メールアドレス: seitenaz@gmail.com

D-8 そのゴミ！ゴミじゃなあってい！

分別するだけで地球が変わる

～令和のリサイクル技術と私達ができること～

講義担当：サステナビリティ教育研究会

講座対象者	☐ 小学校低学年 ☐ 小学校中学年 ☒ 小学校高学年 ☐ 放課後施設利用児童 ☒ 中学生 ☒ 高校生 ☐ 大学生 ☒ 地域一般		
授業活用例	近年ゴミの分別方法が変わったのでそのおさらいと、日本のリサイクル技術を知り、自分もそのリサイクルの過程の一人と自覚、横浜市のリサイクル向上を目指す。		
関連のあるSDGsのゴール	   	オンライン授業	☐ 可 ☒ 不可
対応可能曜日	☒ 平日 ☐ 休日 ☐ その他(できれば水曜日以外)		
対応時間	9:00～16:00		
年間実施上限数	3回ほど		
講座実施方法 ※()は場所等	☒ 講義(簡単なシールカードを使ったゲーム) ☐ ワークショップ() ☐ 自然体験()		
講座所要時間	45分×2 2 時限		
実施条件、必要な準備等	スクリーン、プロジェクター、付箋		

講座内容

前半

- ①最近捨てたゴミを紙に書き出す
- ②ゴミの分別ゲーム(年齢層に合わせて難易度を調整)
- ③ゴミのリサイクル技術(神奈川県内企業)を知る
- ④サーキュラーエコノミー体験(住民、リサイクル会社など役をつくり、どの過程が止まっても循環できないことを知る)

後半

- ①最近、修理したものを書き出す
- ②江戸時代の修理技術を知る。(例:焼きつきなど)
- ③江戸時代は竹など土に帰る物が商品だった。現代の竹の利用技術を知る、
- ④プラスチック製品が増えても考え方は江戸時代と同じ。リサイクルすることでゴミを減らす。
- ⑤ゴミを減らすことで街はどのように変わるか、気候変動対策になるか、地球はどう変わるかを考える。
- ⑥リサイクルを増やすために、何をすればよいかを考える。



問合せ先：サステナビリティ教育研究会 舞はるり TEL:090-9973-5511

メールアドレス: maiharuli3104@gmail.com

D-9 「下水から農業へ！リンの資源循環」

～下水から回収したリンを肥料へ～

講義担当：横浜市下水道河川局マネジメント推進課・みどり環境局農業振興課

講座対象者	□小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 □放課後施設利用児童 □中学生 □高校生 □大学生 □地域一般		
授業活用例	小4社会 生活環境、小5社会 農業・食料生産、総合的な学習の時間		
関連のあるSDGsのゴール	11, 12, 14, 15	オンライン授業	■可 □不可
対応可能曜日	■平日 □休日 □その他(曜日)		
対応時間	8:30～17:15		
年間実施上限数	6 ※応募数や業務の都合により、時期の調整やお受けできない場合があります		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義() □ワークショップ() □自然体験()		
講座所要時間	45 分程度		
実施条件、必要な準備等	講義資料の投影(モニター、パワーポイントが使えるパソコン)		

講座内容

横浜市では、下水を処理する過程で発生する汚泥から肥料原料となるリン(以下、再生リン)を回収し肥料化する事業を進めています。

下水から回収した再生リンを肥料化し、農業で利用、採れた生産物を市民の皆様が手に取り、再び下水に戻るといった資源循環の流れを講義し、循環型社会の形成の取組に理解を深めてもらいます。

■講義内容

- ・下水処理のしくみ(下水処理から下水汚泥の処理まで) ・下水汚泥から再生リンを回収するしくみ
- ・再生リンを回収する必要性 ・横浜の農業について ・農業で再生リン肥料として活用する取組



■施設見学

ご相談により、施設見学(水再生センター、汚泥資源化センター、再生リン回収施設)と組み合わせることも可能です。

問合せ先：横浜市下水道河川局マネジメント推進課 TEL:045-671-3967

メールアドレス: gk-gijutukaihatu@city.yokohama.lg.jp

メールアドレス:kenichi yoneda2000@ymail.ne.jp

D-11 容器のエコを学ぼう

～容器の役割からリサイクルまでクイズ・ゲームで楽しく学べます～

講義担当:東洋製罐グループ

講座対象者	□小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 □放課後施設利用児童 ■中学生 □高校生 □大学生 □地域一般		
授業活用例	小学校4年生「総合学習」、小学校5年生「家庭科」、小学校6年生「総合学習」		
関連のあるSDGsのゴール	12、14	オンライン授業	■可 □不可
対応可能曜日	■平日 □休日 □その他(曜日)		
対応時間	9時～17時		
年間実施上限数	20回(日程があれば20回を超えても開催できる場合があります)		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(プロジェクトまたはディスプレイが利用できる教室) ■ワークショップ(プロジェクトまたはディスプレイが利用できる教室) □自然体験()		
講座所要時間	45分		
実施条件、 必要な準備等	プロジェクトまたはディスプレイとPCとつなぐコネクタ(HDMI)の準備をお願いします。		

講座内容

容器を使ったら分別するのが当たり前の社会。当たり前がなぜ必要なのかに疑問を持ち、理由を考える力をはぐくみ、グループで話し合って答えを探します。
缶、びん、ペットボトル、紙コップなど、さまざまな容器を作っている東洋製罐グループならではのプログラムを通して、資源の有限性や循環型社会の仕組みと役割を知り、自分にできることは何か考え行動していくきっかけにお役立て下さい。

■プログラム例 小学生向け授業 容器を学ぼう！(45分)

①容器を学ぼう(講義)(15分)

事前にテキストを配付し、容器の役割とエコについて簡単な講義を行います。

②リサイクルカードゲーム(グループワーク)(25分)

ゲーム感覚でリサイクルの理解を深めるグループワークを行います。

グループの考えを発表し、みんなの答えをクラス全体で共有します。

③まとめ(5分)

本日のおさらいと補足説明を行います。



テキスト



グループ用シート



カード

問合せ先:東洋製罐グループホールディングス株式会社 TEL:03-4514-2026

メールアドレス:yoshihiko_chuujuu@tskg-hd.com

D-12 3R とごみ問題について考えよう♪

～混ぜればごみ、分ければ資源！～

講義担当：生活協同組合パルシステム神奈川

講座対象者	□小学校低学年 ■小学校中学年 ■小学校高学年 ■放課後施設利用児童 □中学生 □高校生 □大学生 □地域一般		
授業活用例	小学校高学年「家庭科：環境に配慮した生活」「理科：生物と環境」「社会科：わたしたちのくらしとごみ」		
関連のあるSDGsのゴール	11, 12, 13, 14, 15	オンライン授業	■可 □不可
対応可能曜日	■平日 □休日 ■その他(月～金の祝日)		
対応時間	10時～15時		
年間実施上限数	年10回程度		
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(屋内：パソコン、プロジェクターもしくはTVが利用できる教室) ■ワークショップ(イラストが描かれたカードを用いて、3Rのどれに当てはまるか考えるグループワーク)		
講座所要時間	45分 [講義(動画含む)30分・グループワーク15分]		
実施条件、 必要な準備等	映写用スクリーンまたは、大きめのテレビ ※スクリーンでスライド上映の場合は、プロジェクター		

プログラム内容

1. 講座の目的・ねらい

身近なごみ問題の事例をとらえてごみ問題を自分ごととしてとらえ、3Rの理解を深めたうえで、これから自分たちにできることを考えるきっかけづくり。

2. 内容

- ・クイズ等を織り交ぜながら受講者の皆さんとコミュニケーションをとりながら進めます。
- ・受講対象年齢に応じて内容の調整ができますので、事前にご相談ください。

(1)前半：講義(30分)

パワーポイント(スライド)を使って、以下について説明。

- ・身近なごみ問題を知る
- ・3R(リユース・リデュース・リサイクル)の説明

(2)後半：グループワーク(15分)

これまでごみとして捨てていたものを、どのようにすれば「リユース」「リデュース」「リサイクル」できるのかを考えます。

グループワークを通じて、実生活の中での3Rについての理解を深めてもらいます。

※パルシステムの3Rの動画を視聴後、
牛乳パックから作られたトイレット
ペーパーやリユースびんなどを実際に
手に取ってみます。

